

平成18年11月16日

〒590-0494  
京都大学原子炉実験所  
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25  
蒼天社政治情報センター  
代表・石川鐵也



## 公開質問状 VI

平成18年10月31日第699-52-90210-6号配達記録郵便での公開質問状Ⅲに対する文書回答(11月7日付)有り難うございました。私も、北海道、北陸、近畿と回り昨夜戻りましたが、本状作成後に福島県庁に向かいます。

さて、「議論が次々と拡散、拡大してきている」とのことですが、物事の本質を見極めた時点で(今般同様)基本に戻りますのでご安心ください。小出さんとの議論を通じ、「では、どうすれば良いのか」といった結論にたどりつければと考えております。お忙しい最中ご面倒とは存じますが、下記質問に対する一週間以内(できるだけ)での文書回答、宜しくお願い申し上げます。

### — 記 —

1. これまでの貴殿回答書によって、貴殿主張(原子力発電を即時停止し、代わりに石油、石炭、天然ガスといった火力発電を用い、将来は太陽エネルギーに頼る)は明確になりましたが、これは、政府判断より以上に、資源輸出国の思惑次第で日本のエネルギー事情が左右されることになる「無責任論」に思えてなりません。  
エネルギー問題は国家戦略の要であり、「外交の要諦」と言っても過言ではありません。本件は、エネルギー論議の発端となるべき事実ですが、貧地下資源国の国民である貴殿の見解は如何でしょうか?回答書で「誤った」と断じた国の政策部分や各国への対処方等と併せてご教示いただきたい。
2. これまでの貴殿回答書によって、貴殿主張(今後の研究で地層処分よりましな処分方法が見つかる可能性はもちろんあるのだから、今、安全の保証ができない方法で埋め捨てにしてはならない)は明確になりましたが、①一体どこの誰が、地層処分よりましな処分方法とやらを見つけるといえるのでしょうか②ましな処分方法が見つかるまではどうすれば良いと言うのでしょうか③廃炉にした原発を一体どのようにして処理・処分するといえるのでしょうか?その具体的理由と併せてご教示いただきたい。
3. これまでの貴殿回答書によって、貴殿主張(東京電力による原発検査データのごまかし、ねつ造に端を発して東京電力のすべての原発が一斉に停止を余儀なくされたことがあります。それは「自然任せ」ではありませんが、「計画的に停止」した訳でもありません)云々は明確になりましたが、やはり、「安定電源の意味を理解していない」と言わざるをえません。

東京電力は、無計画かつ思いつきで原発を停止した訳ではありません。予備電源の整備状況等を確認するなどして、順次計画的に停止したはずで、チェルノブイリ原発も同様です。代替エネルギー源が確保できなければ、世界を震撼させた型式の原発でも稼働させなければならないのです。

私は、安定電源の定義について、「稼働、停止を計画的に行える電源」と位置付けておりますが、貴殿見解は如何でしょうか？その具体的な理由と併せてご教示いただきたい。

4. 貴殿回答書内容（本当に意味のある論争を望んでいるのであれば、事実に基づいて議論を進めてください）には賛同いたします。願わくは、部分的事実の論争ではなく、全体的事実（真実）に基づく論議を重ねたいと思います。

①「推進派が貴殿同様の発言をすれば鬼の首でも」についてですが、これは無責任な報道のあり方を指摘したものであり、その報道を利用してきた無責任な原発反対派の実態を述べたもので、貴殿個人を対象にしたものではありません。質問状を熟読いただければ理解されたはずですが、如何でしょうか？

②命の重要性についてですが、5000人の村でも1000万人以上の大都市でも、そこに住んでいる住民一人ひとりの命の重要性に差異はないはずで、生存の可能性があるにもかかわらず、消火のために注水した夕張炭鉱の悲劇。歩いているだけで車にはね殺された園児や児童の命。私の従兄弟は、追突した際に車が炎上し、前身火傷で死亡しました。そういった命の重要性と、原子力事故でなくなった命の重要性は異なるのでしょうか。遺族の怒り、悲しみも同様ですが、何故、原子力事故による死亡事故のみを殊更に強調するのでしょうか？是非ともその具体的な理由をご教示いただきたい。

③「ドラマの奇麗事とレッテルを貼って片付けていますが、そのような決めつけも議論には不適切です」についてですが、もし、天満東京都知事が実在の人物で、5000人の命を救うか1000万人の命を救うかといった場面に直面したとき、天満都知事はどの様に決断するのでしょうか。責任ある者なら、苦汁の決断として多数の命を救うはずで、ドラマの終了は造り手次第ですが、現実とは違います。故に私は、「東京都民が、そのリスクを負わずに、原発をよその土地に押し付けておいていいのか、で止めてはならない。住民一人ひとりの命のリスクが同じだからこそ、被害を最小限に停める方策を講じる必要があるのだ。多数の都民らが少数島民全員を受け入れることは可能だが、その逆は無理」と記したのです。こういった部分的事実を積み重ねるだけでも、こういった場所を適地とすべきなのか、常識ある人々ならば理解できるはずですが、貴殿見解は如何でしょうか？

④京都大学原子炉実験所も原子力発電の必要性からつくられた組織と推察します。科学や技術の進歩も、問題点をクリアしようとする関係者がいればこそではありませんか。リスクがあれば、その事実を国民に伝えることも大事ですが、その一方でリスク削減の努力をすべきではありませんか。もし、貴殿が、原子力発電に反対する為のあら捜しをするためだけで助手を続けているのであれば、「それは問題だ」と言わざるを得ませんが、如何でしょうか？

以上